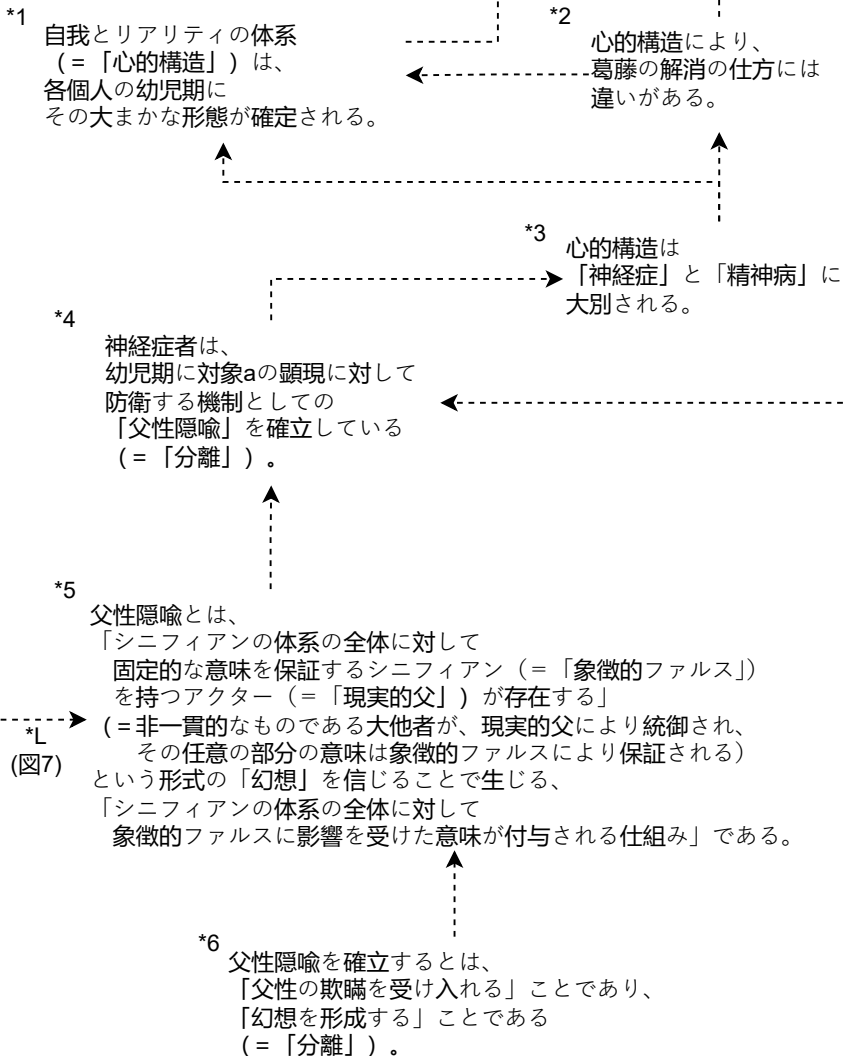


図6：神経症と精神病における葛藤の解消



*8 精神病者は、
幼児期に対象aの顕現に対して
防衛しなければならない状況を
経験しておらず、
そのため父性隠喩を確立してもいない。

*7 神経症者は、
父性隠喩を用いて対象aを隠喩化
(=「抑圧」)することで、
対象aの顕現に対して防衛する。

*9 精神病者は、
対象aを意識から排除する
(=「否認」)
(=「知ろうとしない」)
ことで、
対象aの顕現に対して防衛する。

*10
修正の結果構築される
自我とリアリティが、
他の人間個体のそれからは
整合性を保てない場合、
そのような修正を行った人間個体は
「病的」であるとされる。

*11 神経症者の「症状」は、
反復強迫する対象aとなった出来事 (S1) を、
「隠喩」的もしくは「文字」的あるいは「音素」的に
つながりのある「言葉」を経由する (S1→S2) ことで、
間接的に解消して満足するものである (=「象徴的加工」)。

*12 精神病者の「症状」は、
反復強迫する対象aとなった出来事 (S1) を、
直接的・無媒介的に呼び起して解決することによって、
解消して満足するものである。

*13 直接的・無媒介的に
呼び起された出来事は、
「パラノイア」の場合では、
「妄想形成 (S1→S2)」
によって解決される。

*14 直接的・無媒介的に
呼び起された出来事は、
「スキゾフレニー」の場合では、
シニフィアンの体系を用いずに
そのまま身体で享楽を受け止める
(=「S1の散乱状態」)。